

PV-Net News

— 第17号 —



PV-Net News第17号 2008年12月20日発行 ■発行人：藤井石根 ■編集人：都筑 建 ■発行所：NPO法人 太陽光発電所ネットワーク 〒113-0034文京区湯島1-9-10-202
 ■記事・広告等のお問い合わせ E-Mail：info@greenenergy.jp TEL：03-5805-3577 ※記事および写真等の無断転載は固くお断りいたします。
 ■インターネットでも情報をご覧いただけます。www.greenenergy.jp ■印刷：豊印刷(株) ■レイアウト・編集協力：八木澤晴子
 ※太陽光発電のことを英語でPhotovoltaic power generationといい、略して「PV」と呼ばれています。
 太陽光発電所ネットワークの英文名称PV Owner Network, Japanを省略して、この会の名称を「PV-Net」としています。

CONTENTS もくじ

1 ニューストピックス

大集合イベント開催のお知らせ

2 提言 太陽光発電所ネットワーク5つの提言

3 計量法を乗り越えて

- ・署名活動を進めました
- ・計量法検定付電力量計
- ・総発電電力量計の設置工事

5 特集 PV-Greenの新たな動き① 動き出したグリーン電力証書PV-Green

7 特集 PV-Greenの新たな動き② ～自治体、それぞれの活動～愛知県

8 PV-Net最前線1 ソーラーマイレージクラブ東京が始動しました!

9 PV-Net最前線2 提案 ホームページの改善を!

10 連載 PV-RessQ! 第3回 本当の「私の視点」～朝日新聞でいいたかったこと

12 各地の発電量データと太陽光発電所マップ

14 会員の広場

16 活動報告 地域の動き

22 理事会&部会報告

24 事務局からのお知らせ 活動カレンダー

COLUMN コラム

- 4 MAKE the RULE
- 20 2008年度 補助事業概要
- 21 PV-Net川柳 第十五回

NEWS TOPICS

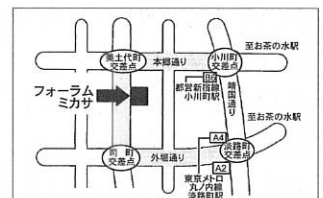
大集合イベントが開催されます

2009年2月8日(日)に、昨年と同様の計画で、大集合イベントが開催されます。

PV-Netの活動が全国にまでおよんでいることを意識して、昨年初めて4地域をTV会議システムで結び、同時中継で開催しました。苦心した経験を積極的に生かすことを考慮して、今年も東京会場を拠点とし、昨年の経験・実績のある関西、中部、福岡会場を結びます。

テーマは『太陽光発電を通じた省エネルギー型ライフスタイル普及活動』です。各地域15～20分程度の活動報告をTVシステムを通して発表するほか、各会場で自分のライフスタイルをポスターセッションで発表、あるいはワークショップを展開して、最後にもう一度TV会議システムでそれぞれの結果を報告し合うという、昨年の流れを発展継承したものにします。

- ◎東京会場は、フォーラムミカサです(右図参照)。
 所在地：東京都千代田区神田美土代町3-1 三笠ビル
 最寄り駅：・東京メトロ丸ノ内線淡路町駅
 A4出口 徒歩4分
 ・都営新宿線小川町駅
 B6出口 徒歩2分



◎関西、中部、福岡の各会場については、追ってPV-Netのホームページでご案内します。パソコンが使えない方は各地域の世話人までお問い合わせください。

◆プログラム◆

1. 活動報告：カーボンフリーな暮らしと楽しみ
2. ワークショップ：太陽光発電をもっと広げるための私たちの使命
3. まとめの報告

ポスターセッションには、どなたでも参加できます。模造紙を横長に使って1枚にまとめてください。テーマは『我が家の省エネ生活』です。東京会場の他、関西、中部、福岡の各会場の地域担当者宛てに送付してください。近い会場宛てでなくても結構です。休み時間に投票を行い、優秀作品は次号の会報に掲載する予定です。

●参加申し込み方法：氏名、住所、電話番号、懇親会参加の有無を記入のうえ、同封の参加会場担当者宛てにメール、Fax、郵送で申し込みください。申し込み期日は2009年2月3日までとします。

太陽光発電所ネットワーク 五つの提言

NPO法人太陽光発電所ネットワークは、悠久不滅な太陽エネルギーの活用技術『太陽光発電』を拡大・発展させるために、以下の五つの提言を声を大にしています。

- 1、太陽光で発電した電力をもっと高く買いとる制度を法律で確立してください。
- 2、太陽光発電システムを屋根に乗せやすいように補助制度を早急に具体化してください。
- 3、太陽光発電システムを設置した家を優遇する税制を制定してください。
- 4、生み出した環境価値を数値化したグリーン電力を活用しやすい環境を整備してください。
- 5、開発努力を続けている太陽光発電関連企業にも優遇措置を実施してください。

PV-Net会員であれば十分ご承知だとは思いますが、地球に降り注ぐ1時間の太陽エネルギーは、全世界で使う1年分のエネルギーです。日本の食料自給率が40%以下ということは、日本人の多くが知るところですが、エネルギー自給率が4%以下であることを認識している日本人はどれだけいるのでしょうか（国の統計では、ウランが輸入に頼っているのにもかかわらず、原子力を国産エネルギーとしているので、自給率を18%としているのだそうです）。中東の産油国が、輸出用の石油が枯渇した後のことを配慮したうえで太陽光

発電を積極的に設置しているというのに、資源小国の日本がそれを進めない愚に、日本人は早く気づくべきでしょう。

設置費用の回収に20年以上の年月がかかることを承知のうえで、何の法律も整備されないうちにいち早く太陽エネルギーを活用できる太陽光発電を屋根に載せた実践者の集まりであるPV-Netには、声高に提言する資格があります。

上記、5つの提言は2008年7月の「第3回新エネルギー世界展示会」で掲げたものを整理し、一部順序を入れ替えたものです。

なかでも提言4は、既設の約43

万世帯の発電量メータが計量法に則っていないために公的数値として認められていないのですが、この現状に対して、太陽光発電のバイオニアといえる、早期に取り入れた既設者と、これから設置する人との間に差が生じないことへの願いがこめられています。

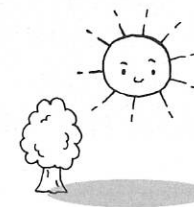
提言5は、「廉価にするための企業努力を…」となっていました、企業が努力をしていないわけがないので、余計なお世話かも知れませんが「企業にも補助を…」と、変更しました。

設備を製造する時に使われるCO₂は、2年間の発電量で取り戻せます。3年目以降から、CO₂を全く発生させないで太陽のエネルギーだけで電気を作り出す太陽光発電、高圧線による送電ロスのない地産地消の太陽光発電、真夏の昼間の最大使用電力のピークカットに役立つ太陽光発電をもっともっと拡大しましょう。

(普及広報部 鈴木昭男)



計量法を乗り越えて



1. 署名活動を大きく進めました
日本には世界に類を見ない43万というおびただしい数の個人住宅太陽光発電（以下PV）設置者がいます。しかしそれらの環境価値行使の権利を闇夜に葬り、CO₂を増やしコストアップにもなる計量法検定済電力計設置に対して、3,342名の署名を集めての要請行動を、経産大臣、国会、諮問委員会等に粘り強く行いました。PV健康診断などを活用することで計量法適用でなくても十分に信頼できる環境価値を表すことが可能なことも説明してきました。しかし、適用猶予期間が来年11月に迫っていることと、経産省がガイドラインで原則ナシの適用を強行したことから、私たちの主張に大儀はあっても、このままでは脱法としてのそしりを受けかねない事態が予測されます。PV-Netとしても手をこまねいているわけにはいきません。

2. 計量法検定済電力計の設置を
PV-Netの結束をより拡大し、また政策提言を強化してPV設置者の権利を守る活動を進めることで改善を求めながら検定済電力計の設置を進めていくこととします。ただ、認証センターにおける猶予期間のあり方では不明確な点もあ

り、多くの知らされていないPV設置者が少しでも準備期間を取れるように努力しています。皆様の理解と協力をお願いします。

◎検定済電力計の設置ガイド

ラインに沿って取付け
太陽光発電協会（JPEA）のガイドラインを参考に以下のように工事を行ってください。ただし、すでにグリーン電力設備認定をされている方はPVを設置してから10年までは猶予期間があります。

3. 総発電電力量計の設置工事のガイドライン

3-1 “総発電電力量計”の設置

B：屋外設置
屋外に設置する場合の接続例を図1に示します。誤検針を防止するため、総発電電力量計は他の電力量計（順潮流電力量計、逆潮流

電力量計）から少し離れた位置に設置する。また大きくて容易に消えない方法で“グリーン電力総発電”または“G総発電”と表示。

3-2 “総発電電力量計”の設置

B：屋内設置
運用上（検針方法等による）、総発電電力量計を屋内に設置する場合を接続例の図2に示します。設置目的を明確にするために、総発電電力量計の周辺に容易に消えない方法で“グリーン電力総発電”または“G総発電”と表示。電力量計はアナログ型でも可。価格や設置スペースを考慮して選択してください。

3-3 電力量計の接続

パワーコンディショナー、総発電電力量計、太陽光用ブレーカ間の接続例を図3に示します。

図3. 接続図

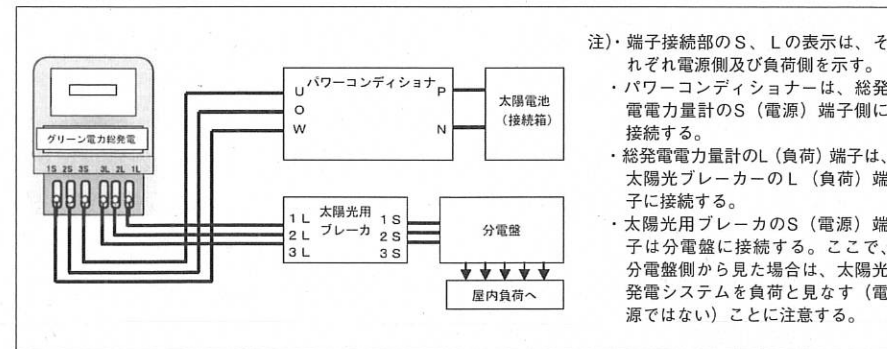


図1. 総発電電力量計を屋外に設置する場合

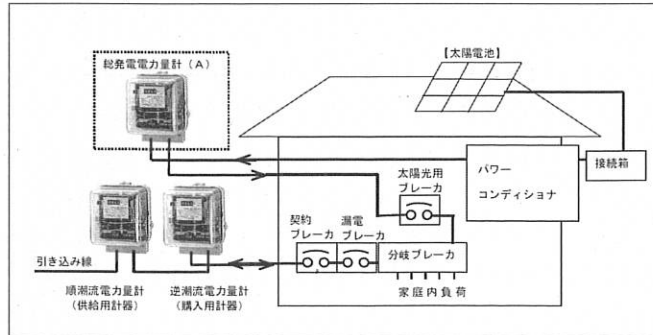
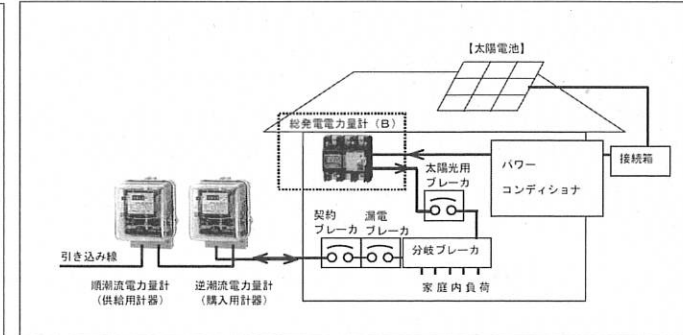


図2. 総発電電力量計を屋内に設置する場合



特集

PV-Greenの新たな動き①

～動き出したグリーン電力証書 PV-Green

3-4 計測に用いる電力量計

表1、2は総発電電力量計の計測に用いる電力量計の一例です。表3に表示と管理区分を示します。

表1. 総発電電力量計

メーカー	型名	主な仕様	備考
大崎電気工業株	A26A	単相三線式普通電力量計 定格電流 30A/120A	表面取付け形 逆回転阻止装置なし*
中部精機株	C26A	1	1
東芝株	S33S-K15	1	1
富士電機システム株	F21F/F22F	1	1
三菱電機株	M2LM	1	1

*一般にパワーコンディショナの待機電力は微量であるため、逆回転阻止装置はなしでよい

表2. 総発電電力量計 (コンパクト型)

メーカー	型名	主な仕様	備考
大崎電気工業株	A6CA-S31R	単相三線式普通電力量計 定格電流 30A/120A	表面取付け形、デジタル表示 逆方向電力は計測しない*
三菱電機株	M8U-K32R	1	1

*コンパクト型の場合は、逆回転阻止装置付き相当の動作をする

表3. 総発電電力量計の表示と管理区分

名称表示	所有者	管理責任者	設置・交換費用負担
グリーン電力総発電 (またはG総発電)	ユーザー	ユーザー	ユーザー

3-5 補足、注意事項

以下は工事・運用の注意点です。
①電力量計は、設置場所に応じて必要な保護機能を備えた収納箱に収め手設置する。

②収納箱は、メータボックス、WHMボックス、WHM収納キャビネット等の名称で市販されている。軒下設置の場合、例えば保護等級“IP33 (IEC基準)”以上を使用する。
③誤検針防止のために他の電力量計と異なる色の収納箱を使用し、少し離れたところに取り付けることを推奨する。

④設置工事は内線規

程に基づき実施する。又点検表等により施工検査を確実にを行う。

⑤計量法により、取引に用いる計器は検定品を使用することが定められている。同一型名の電力量計でも“検定品”と“非検定品”が設定されている場合があるので、発注時には検定品であることを指定、または確認する。

⑥計量法では検定品の有効期限が定められているため (通常10年)、有効期間内に更新、または再検定を受ける必要がある。

⑦使用有効期間を過ぎた電力量計は、専門業者に依頼して速やかに取り外す。

⑧電力量計を交換する場合は、計量に支障のないように電力量計の指示値を読み取っておく。

(事務局 都筑 建)

*このガイドラインはJPEAから

1. はじめに

これまで個人住宅太陽光発電 (以下PV) のグリーン電力証書事業はPV-NetのPV-Greenが独占状態でした。しかし昨年の洞爺湖サミット以降急激に証書への関心が高まり、国も本格的に普及に乗り出し、ガイドライン作成などに力を入れてきました (計量法問題のとばっちり撒き散らしながら...)。それに倣って、個人住宅PVの証書を扱う発行事業者も増えました。PV-Netが最初に手がけ、苦心して開拓してきた分野です。十分に考慮して事業を進めているとは考えにくい事業者も散見され、PV-Netの正念場が始まったといえます。

2. 年内に交付が一巡するか?

今年の8月時点での発電量認証量が134万kWh、証書販売量が67万kWh在庫67万kWhとなっています。急激な販売の伸びが予想され、在庫不足が予測されます。発電者の皆さんには証書が売れたことによって交付金が支払われています。

交付率が7割を突破したようです。発電量認証されてから2年以内に交付することをPV-Netとしては目指しています。これまでの設備補助に慣れた人にとっては交付期間の長さに痺れを切らす人も見かけられますが、1年間の発電期間と認証期間等を入れると設備認証して (PV-Greenに申し込んで) から1年半以上かかることとなります。発電量認証から2年以内に販売するという事は、大まかに言うと申し込んでから3年半以内に販売されることを意味します。要するに廻り出すまでが長いのです。この感覚を理解してください。

次に販売状況を見てみましょう。

3. 販売状況

3-1 個人住宅PVの地産地消の価値が浸透

東京、大手町のイルミネーションのイベントではPVと風力のグリーン電力証書を選択してイルミネーションをオフセットしましたが、風力よりPVを選ぶ人が2割近く多いという結果が出ました。地産地消の個人住宅PVに人気があったからです。サッカーでは大宮アルディージャ、浦和レッズ、アビスパ福岡、東京ヴェルディ。野球では西武ライオンズがそれぞれ割高 (18円/kWh) にもかかわらず地元産指定のPVの環境価値を購入しています。来年度の契約もすでにオファーがあります。スポーツとしては京セラが主催している全日本シニア女子ゴルフ大会もPV-Greenが活躍しました。

3-2 プロジェクト方式

(ビックカメラ方式) の可能性
特定の企業や事業所のグリーン化をするために発電をしたPV環境価値の提供を呼びかけるプロジェクト方式を大手家電量販店のビックカメラが京都で行っていますが、この方式のために京都の会員が40名以上に増え、地域交流会を2009年2月に立ち上げる段取りとなっています。ビックカメラの宣伝にもなり、私たちの会員も増えるWIN-WINの関係が生まれています。設置事業者の協力も見逃せません。この方式の応用が考えられます。

3-3 統一グリーンマーク使用第一号は シャープの液晶TV

経産省の呼びかけで始められた

制度ですが、グリーンマーク添付商品のためにグリーン化費用を損金算入として認められる制度 (予定) を利用した第一号がシャープ (株) です。25万kWhと大口購入でもありました。在庫の1/3強に当たります。次々とシャープ製品の製造電力消費量をグリーン化する流れですが、ここへ来て世界的な金融危機のあおりで動きが鈍りました。しかし流れは変わりません。家電店に行ってもつい、シャープのアクオスRシリーズに目がいきます。

3-4 PV-Greenを利用した寄付型・ポイント還元型の出現

「NGOアリーナ」はインターネットを活用して一般から寄付を募る事業をしています。寄付先に自然エネルギー普及の団体としてPV-Netが選ばれました。インターネットで選んだ寄付者にはNGOアリーナが購入したPV-Greenを小口にして提供されます。

ポイント還元では首都圏で有力な生協連合のバルシステム生協が組合員購買還元ポイントとしてPV-Greenを選択肢に入れた活動を進めています。環境省で進めているエコポイントでバルシステムの活動が採用され、PV-Greenの活用もされず (他の生協とも協議中)。さらにクレジット大手のイオンも12月からポイント還元としてPV-Greenを採用し購入に至っています。

3-5 イベント利用も堅実に増大

SEMI (セミ) という国際的な半導体企業の団体があります。世界展示など多く手がけることからイベントとしては一回で2万kWhを超える証書でのオフセットをされ

MAKE the RULE

～新しいルールで 地球をクールに～



地球温暖化防止が叫ばれてすでに何年もたっています。日本では住宅用太陽光発電が飛躍的に普及し (世界で第二位)、エコもブームになってきて、マイ箸・エコバック (ムダバックも増えていますが...) を持つ人も増えてきました。なのに、日本ではCO2は相変わらず増え続け、世界でも温暖化の影響はますます大きくなってきています。

そんな日本の状況に業を煮やした市民団体が立ち上がりました。企業や個人の自発的な努力にまかせるだけでなく、温室効果ガスを減らすためのしっかりした社会の「ルール」(法律) を作り、環境のことを考えた行動をすれば得をするようなしくみを作っていこう...それが「MAKE the RULE」です。

MAKE the RULEでは、気候変動や環境問題に取り組んでいる全国の市民・NPOが手を組ん

で、緩やかな連携を築きながら、同時多発的に署名、サイバーアクション、イベント、勉強会やセミナーなどを通じて「新しいルールをつくらう!」という動きをつくっていきます。そして、CO2などの温室効果ガスの削減目標を定め、その目標達成のために温室効果ガスを確実に減らす制度作りを求めていきます。PV-Netも発足当初から実行団体としてこのアクションに積極的に参加しています。

ひとりひとりが声をあげることで大きな流れを作り、政治を動かし、この国に新しいルール (法律) が作られることを目指すMAKE the RULEキャンペーンでは、現在、請願署名を行っています (請願署名同封)。あなたの声を届け、みんなでMAKE the RULEするために、署名活動にご協力ください。

(事務局 伊藤まき)

MAKE the RULEホームページ : <http://www.maketherule.jp/>

特集

PV-Greenの新たな動き②

～自治体、それぞれの活動～ 愛知県

ています。その次に数として多いのが官庁・自治体です。そして個人で旅行や活動のグリーン化オフセットで活用する方も多くなってきました。ここでも個人住宅のPVの地産地消が人気です。

4. 販売の提携

PV-Greenを積極的に自社の商品

として取り上げ再販としての契約を進めている提携企業ができました。ツバルの森、ラウル、日比谷花壇、新興マタイ、エコテック(敬称略)などです。まだ多くの地域のNGO/NPOとも提携が進んでいます。環境価値の帰属先をしっかりと押さえながら進めるのが肝心です。

5. グリーンエネルギー認証センターでは「信頼性の確立」実現の組織変革を行うカーボンオフセット(CO₂排出量取引)の中にグリーン電力証書を有力な一つにする連携の検討や、グリーン熱証書についても検討委員会が設置されて検証が進んでいます。

(事務局長 都筑 建)

●PVグリーン電力証書販売量、販売内容

購入者	産地指定	活用先	グリーン電力発電所	kWhpvg
個人	なし	国際線フライト(日本⇄欧州) 2名分	05①	20,000
ひむか・おひさま共和国	なし	ひむか・おひさま共和国 2008年度イベント活動	05①	3,000
さがみはら環境まつり実行委員会	神奈川	さがみはら環境まつり	05②	1,000
三洋商事株式会社	ボッポおひさま発電所	三洋商事株式会社	ボッポ	8,000
特定非営利活動法人 東大市市民環境会議	ボッポおひさま発電所+大阪	活動10周年記念感謝状	ボッポ、05②	1,000
とくしま環境県民会議	徳島	平成20年度とくしま環境県民会議総会	07④	1,000
エコライフかがわ推進会議	香川	CO2削減 かがわええこと運動 キックオフフォーラム	07③	300
衆議院議員 西野あきら	東京	2008年 西野あきら君を囲む 飛翔フォーラム21	06③	1,000
個人<ミニ証書(太陽光発電でドン)>	東京	1kWh*100枚	06③	100
個人<ミニ証書(埼玉)>	埼玉	100kWh*10個	05①	1,000
名古屋テレビ塔株式会社	なし	グリーン・エネルギー促進ウィーク グリーンエネルギーでグリーンライトアップ!	05①	2,000
大宮アルディージャ	埼玉	7/12 第16節 大宮アルディージャ vs. ジュビロ磐田	05②	6,000
株式会社西武ライオンズ	埼玉	7/5 埼玉西武ライオンズ vs. 東北楽天ゴールデンイーグルス	05②	4,000
牧場ラボ	神奈川	第5回ひかり祭り	05②	1,000
(財)新エネルギー財団	東京	グリーン・エネルギー・パートナーシップ	06③、04④	1,000
株式会社三菱自動車フットボールクラブ	埼玉	7/5 第15節 浦和レッズ vs. FC東京	05②	5,000
個人<ミニ証書(静岡)>	静岡	100kWh*9個	05①	900
さいたま市環境局環境共生部環境総務課	埼玉	エコウェブSAITAMA 2008	05②	1,000
特定非営利活動法人 アースライフネットワーク	静岡	北海道洞爺湖サミット記念シンポジウム in 静岡県議会	05①	1,000
個人(木村邸)	茨城	2008年度自宅消費電力分	05①	1,000
FUJI Rock Festival	新潟	来場者配布用	07④	1,000
アビスパ福岡株式会社	福岡	アビスパ福岡 vs 徳島ヴォルティス戦	06③	3,000
栃木県	栃木	*とちぎ発* ストップ温暖化アクションイベント「涼感まつり」	05①	1,000
埼玉県環境部温暖化対策課	埼玉	①みどり川と川の再生埼玉フォーラム イン 寄居、 ②エコ・カーフェア埼玉2008 ③ストップ温暖化 SAITAMA フェア ④第2回みどり川と川の再生埼玉フォーラム	05②	1,100
地球環境イニシアティブ	なし	GEINフォーラム Vol.1 国政公開討論会 再生可能エネルギーの推進を日本の環境・エネルギー政策の柱に	05①	1,000
個人	なし	自宅	05①	5,500
中部経済産業局	愛知	中部エネルギー・温暖化対策推進会議	05④	100
個人<ミニ証書(地域指定なし)>	なし	100kWh*20個	05①	2,000
個人<ミニ証書(山梨)>	山梨	100kWh*28個	05①、05②	2,800
世田谷スタジオ	なし	世田谷スタジオ WORLD HAPPINESS コンサート リハーサル	05①	1,000
個人(畑山邸)	東京	自宅	2-04④	300
日本生活協同組合連合会	ボッポおひさま発電所+大阪	コープ たべる、たいせつフェスティバル 2008	05②	3,000
エコメッセ2008 in ちば 実行委員会	千葉	エコメッセ2008 in ちば	05①	2,000
埼玉県立浦和東高等学校	埼玉	埼玉県立浦和東高等学校 第26回東雲祭	05②	3,000
小平市ごみ減量推進実行委員会	なし	小平市ごみ減量推進実行委員会 こだいらエコフェスティバル 08	05①	100
個人<ミニ証書(千葉)>	千葉	100kWh*10個	05①	1,000
栃木県エコ・もりフェア実行委員会	栃木	エコ・もりフェア2008	05①	1,000
しずおか環境・森林フェア実行委員会	静岡	第6回しずおか環境・森林フェア	05①	2,000
有限会社セミ・ジャパン	なし	セミコン・ジャパン 2008	05①、05②	20,000
千代田通商株式会社	なし	事業所使用電力(2008年9月1日~2009年3月31日)	05②	5,000
財団法人 香川県環境保全公社	香川	Stop! 地球温暖化 ~みんなで作ろうよ。地球に「ええこと」Party~ 2008	07③	1,100
個人(特定非営利活動法人 環境アリアナ研究機構)	なし	グリーン電力の購入を希望する寄付者	05②	2,333
放送大学環境研究会	なし	放送大学東京世田谷学習センター第22回下馬祭	05②	100
有限会社オフィス仕掛人	なし	宇城音楽祭~ラズロックフェスタ 2K8~	05②	1,000
環境フェスタ中津川実行委員会	なし	第6回 環境フェスタ中津川	05②	1,000
生長の家青年会 東京第一教区青年会 eco文化祭	東京	生長の家青年会 東京第一教区青年会 eco文化祭	04④	480
宮崎県地球温暖化防止活動推進センター(宮崎文化本部)	宮崎	宮崎市環境フェア	05②	1,000
みやざきエコの会	宮崎	宮崎市環境フェア	05②	1,000
特定非営利活動法人 環境ネットワーク埼玉	埼玉	ストップ温暖化* 冷やせ! 彩の国* コンクール	05②	1,000
株式会社 大分放送	大分	Stop! 温暖化おおいいたキャンペーン OBS エコマーケット	06③	1,000
京セラディスプレイインフラ事業部	なし	京セラディスプレイインフラ事業部	05②	15,000
個人<ミニ証書(東京)>	東京	100kWh*3個	05②	300
シャープ株式会社	なし	AQUOS Rシリーズの組立工程(※LC-65RX5-B/T、LC-52RX5-B/T、LC-46RX5-B/Tの2色6機種)	05②、05③、05④、04④	250,000
株式会社リビティ(株) (東京/東京/東京)	なし	2008 J.LEAGUE DIVISION1 第32節 東京ヴェルディ vs コンサドーレ札幌	04④、05①、05②、05③	7,000
イルミネーションストーリー実行委員会	豊田市	イルミネーションストーリー in とよた 2008	05④	400
個人(服部邸)	なし	自宅	04④	1,000
M. M. C. Street Dance Air 2008 実行委員会	岐阜	M. M. C. Street Dance Air 2008	07①	1,000
SEMI ジャパン	なし	会議スペース	04④、06①、05①	51,000
こもろはす会議	なし	こもろはす会議主催 フルク来日公演2008・小諸高原美術館	05①	300
第24回国民文化祭静岡県実行委員会	静岡	「はばたく静岡国文祭」プレフェスティバル 総合音楽祭 ふじのくに伝統文化フェスティバル	05①	1,600
個人<ミニ証書(埼玉)>	埼玉	100kWh*10個	05①	1,000
特定非営利活動法人 環境アリアナ研究機構	なし	Eco テック&ライフとちぎ 2008	05①	500
豊田県	愛知	エコツアー 自然と私をつなぐ旅「藤岡の名木」	05①	1,000
個人<MarunouchiGreen化キャンペーン・ミニ証書>	東京	ミニ証書 6kWh*654枚	04④、05①	3,924
株式会社日比谷花壇	福岡	ホークスタウン株式会社・クリスマスイルミネーション	05②、06③	1,600
ひたち生き生き百年勲業奉還会	茨城	ひたち生き生き百年勲業奉還会	05①	1,000
個人(特定非営利活動法人 環境アリアナ研究機構)	なし	グリーン電力の購入を希望する寄付者	05①	1,533
武蔵野市	東京	第28回むさしの青空市	05①	1,000
ラウル株式会社	佐賀県庁	Web サイトのCO2削減サービス グリーンサイトライセンス	佐賀県庁	45,000
株式会社乃村工藝社 大阪事業所	大阪	御堂筋イルミネーション実証実験	05①、05②	1,900
(財)名古屋都市整備公社	名古屋・愛知	アスナル金山クリスマスイルミネーション 2008	05④、06①、06③	8,100
株式会社日経 BP	東京	日経 BP 社「日経エコロジー」セミナー太陽電池の未来	05①	1,200

■中部地域交流会より

愛知県(所管:環境部地球温暖化対策室)は、グリーン電力証書の仕組みを活用し、太陽光発電の設置を促進するため、今年度、県内で新たに設置される住宅用太陽光発電施設約200件から、1年間、環境価値を買い上げるモデル事業を実施しています。

買い取りの上限は4kW×500時間×20円/kWhということで、対象は2008年4月以降、12月までという期間で6月からスタートしました。

佐賀県や神奈川県等の先例もありおおいに期待をもった事業でした。PV-Netとしても委託事業ということで応募の段階から、本部事務局と中部地域交流会の係りで、実務体制や制度の検討を丁寧にする、愛知県の委託を受けることになりました。

スタート時6月初旬に説明会2回、8月末に地域説明会を4回開きました。6月の説明会はPVメーカー、PV販売会社、住宅メーカー、電気工事会社等の参加でした。8月の説明会は一般市民向けということで開催しました。説明会は、制度や仕組み手続きに関すること、計量法による電力量計の設置ガイドライン(JEPA)の解説でした。その後、新聞紙上にも取り上げられたこともあり、問い合わせの電話はピーク時は1日40件を超えることもありましたが、実際の申込は予想を下回る件数で、11月に入って30件程度に留まっています。

電話の主な内容は、「グリーン電力証書の仕組みを教えてください」

「申請の手続きと書類の書き方を教えてください」「申請書類を送ってほしい」「まだ申し込めるか、間に合うのか」「息子の自宅に設置したいが、〇〇市は対象の地域ですか」「グリーン電力用の計量器って何」「グリーン電力量計の施工方法を教えてください」「グリーン電力量計はどこで買えるのか、いくら位か」「中電に売電を始めている、工事は追加ということになるが誰に頼めばいいのか」「単年度事業だがその後はどうなるのか」という今回のモデル事業に関するものから、「太陽光発電を設置したいが、どこで買えるのか」「数年前に設置したがどこからも補助がなかったので、今回の事業は対象の範囲を広げて(買い取ってほしい)」「パソコンって何ですか?」「太陽光発電は製造時にエネルギーを消費して環境に負荷を与えているので、こういう太陽光普及の事業はやめよ(これに関しては産総研の資料をもとに説明させてください)」「電力の固定買い取り制度について(意見を述べられたり)」「補助金はいつ復活するのか」「補助金をふやしてほしい」などです。

中には県の担当者やこちらの説明を都合よく解釈して、「他所で聞いたから」と事実と明らかに違うことを確かめるようなところもありました。設置者にとっての制度ではありませんが、補助金の代わりの「売り」にしようとしているところの対応には気を使います。

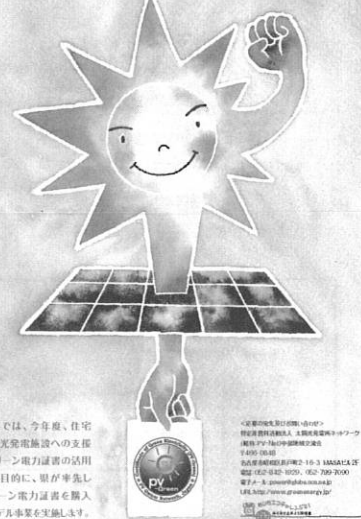
「グリーン電力用の計量器」については、PV-Net全体で計量法の機械的適用について意見を出したり、

署名運動に取組んだ経緯もあり、愛知県が先行して取り組むことへの事業委託に対して意見もありました。全国40万のPV設置者を視野に入れ、現在のPV-Greenに参加する先駆的なみなさんの権利を守るということ、またPV発電の「品質保持」という視点からも、グリーン電力証書の活用を広げていくなかで、課題の解決を図ればと考えます。

現在も県内外の自治体からの問い合わせがあります。事務所へ直接お越しになった自治体もありました。その後も環境省の『グリーン電力証書の活用によるソーラーのまちづくり推進モデル事業』もあり、そこでは既設のPVへの計量器補助を検討している自治体もあります。いくつかの自治体がグリーン電力証書の活用を工夫しようとしています。愛知県の今回のグリーン電力証書活用モデル事業の広がりを感じさせるものです。

(中部地域交流会 三浦悦夫)

平成20年度 新規住宅用太陽光発電施設からグリーン電力証書を買取ります。



葛飾区より、グリーン電力証書利用事業の依頼を受ける!

2008年10月から今年度中、葛飾区内のPV設置希望者に3万/kWの設備補助と、10円/kWhの環境価値買い取りおよび1万円の計量法対応電力量計設置補助が出ます。これは画期的なことです。

ソーラーマイレージクラブ東京が 始動しました!

ソーラーマイレージクラブ東京(以下ソラマイ東京)は、環境省ソーラー・マイレージクラブ事業の普及啓発業務を委託された5つの地域協議会のうちの1つで、東京地域交流会の世話人であるPV-Net会員が中心となり運営しています。ちなみに、ソーラーマイレージクラブ事業のセンター業務はPV-Netの本体が委託されています。

ソラマイ東京では、東京を中心に会員を集め、会員宅での省エネの工夫・実践に取り組むとともに、各種イベントへの参加やイベントの企画を行い、エネルギー消費の削減とその普及広報活動に取り組んでいます。

1月には「今話題の太陽電池を自分で作ってみませんか」と題し、ソーラーパネルの手作り教室を大田区の小学校跡地で開催します。東京およびその近県の方でパネルの自作に興味のある方はぜひご参加ください。

ソラマイ東京では会員から、月

ごとのエネルギー消費量の報告を受け、標準家庭との比較から会員宅のCO2排出削減量を計算し、省エネ度を判定します。今年度のソラマイ東京の目標は

- ・参加目標世帯：40世帯
- ・年間CO2排出削減目標量：27tマイレージ

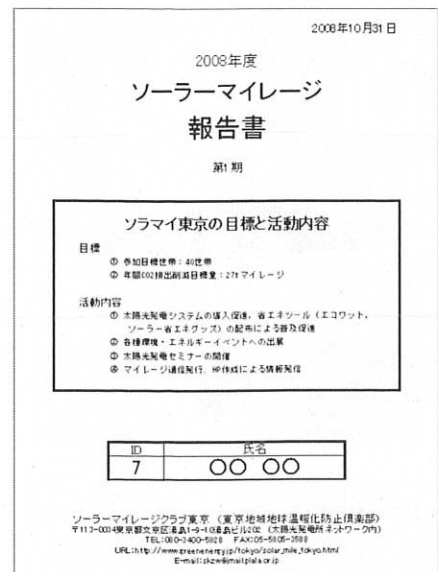
です。

クラブ会員になって省エネランキングで上位になると省エネグッズがもらえるとともに、全国参加者の省エネランキングで上位になった方は表彰され、素敵な賞品が授与されます。

また、ソラマイ東京では会員宅の省エネ度を判定し、その成績が会員の中でどのような位置を占めるのかが一目でわかるような報告書を作成しています(下図参照)。この報告書は、省エネ情報などを掲載した「ソーラーマイレージ通信」と共に、会員の皆さんのお手元に届けています。報告書には会員の皆さんの省エネへの取り組みも記載されます。

現在マイレージクラブの会員になっていただいている方は約30名です。まだまだ間に合いますので、今からでもぜひご参加下さい。ご参加を希望される方は、ソラマイ東京のホームページ (http://www.greenenergy.jp/tokyo/solar_mile_tokyo.html) より書式をダウンロードしていただくか、東京事務局までご連絡下さい(03-5805-3577)。入会申込書のアンケートにお答えいただき、エネルギー消費量をお知らせいただければ、参加していただけます。マイレージの計算に必要なデータは、世帯人数、毎月の買電量、売電量、ガス使用量、灯油使用量です。電力量やガス使用量は検針票などに記載されていますが、お手元に見当たらない場合は電力会社やガス会社に問い合わせれば教えてもらえます。

あなたも、省エネランキングに参加してみませんか。
(ソーラーマイレージクラブ東京 本多一民)



提案 ホームページの改善を!

※茨城の大塚さんからの提案です。現在、普及広報部会を中心に、検討改善が進んでいます。

1. 改善の目的
 - 1) 情報の積極的な公開および開示(定款第60条の2)
 - 2) 情報の共有による組織の活性化

2. 改善の視点

- 1) 事業報告書等の組織の概要の公表
 - ①世の中には怪しいNPOもある。社会に対して積極的な情報公開により信頼を得なければならない。
 - ②次の書類は、特定非営利活動促進法第28条(事業報告書等の備置き等と閲覧)により主たる事務所に備え置き、社員等利害関係人に閲覧させることになっているとともに、同第29条(事業報告書等の提出及び公開)により所轄庁に提出し、請求があったときは閲覧させることになっている。
 - ・事業報告書
 - ・財産目録
 - ・貸借対照表
 - ・収支計算書
 - ・役員名簿
 - ・定款
 - ③上記事業報告書等の組織の概要をWeb(一般エリア)に掲載することとしたい。なお、上記事業報告書等は内閣府が開設しているNPOホームページで閲覧できる。
<http://www.npo-homepage.go.jp/index.html>

2) 会員募集、普及活動

- ④PV-Netの認知度を高めることと会員の拡大は、経済的基盤の強化とともに、PV-Netの最大の課題。
- ⑤住宅用太陽光発電施設の導入は、既設住宅に対するものが7割を越えると推測※1。持ち家一戸建て購入の世帯主年齢の平均は、30代※2なので、会員募集対象は、30代~定年退職者世代までの幅広い年齢層が対象。
- ⑥インターネット利用率は、30代、40代90%以上、50代80%以上。※3
- ⑦会員候補者は、インターネットにより情報収集している。PV-NetのWebは、事業報告書等の情報公開だ

けでなく、活動概要、活動成果、イベント紹介等の積極的な情報の開示(一般エリア)を行って会員候補者に対してアピールすべき。

⑧これらの活動内容等の積極的な情報の開示は、そのまま定款の定める目的達成事業としての太陽光発電の普及活動となる。

※1:平成19年度住宅用太陽光発電システム価格及び発電電力量等についてhttp://www.solar.nef.or.jp/system/html/taiyou_sys080508.pdfをもとに推測
※2: http://homesclub.next-group.jp/research/research/2007/post_25.php
※3: <http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/6210.html>

3) 組織内の情報共有の促進

- 全国に散在する会員が社会に対して活動・運動できるようにWeb等による情報共有(会員エリア)を促進する。Web等による情報共有が改善されれば、時間的制約のある現役世代の会員も活動の一翼を担うことが容易になる。
- ①総会情報
 - ②理事会の活動状況
 - ③部会、相談室の活動状況
 - ④事務局の活動状況(事務局News)
 - ⑤各種検討書、報告書の電子化
 - ⑥その他

4) PV-Greenの販売促進、情報公開

- ①Webからの販売により販売ルートの多様化と宣伝効果を狙う。
- ②認証量・販売量・販売先を一般エリアで公表し、取引先を初めとする関係者との信頼関係を築くとともに、取引先を称える。
- ③交付状況を会員エリアで周知(交付ごと、1回/半年)し、PV-Green参加者の関心(交付金をいつ受け取れるか)に応える。

5) その他コンテンツの改善

- ①発電状況マップ
- ②その他

6) 情報の更新、運用体制の強化

- ①情報の更新をタイムリーに行わなければならない。

②事務局にスキルを身につけたスタッフを置くことが理想的。特定の個人に負荷が掛からぬようにチームを作り分担する。

③専門的技術が必要な場合とWebサーバ保守のために協力業者と安定的関係を結ぶことが必要。

④コンテンツは担当箇所を明確にし、内容の陳腐化を防止する。

3. 配慮すべき事項

- ①インターネット未使用の会員が多数存在
 - ・一方、組織の拡大(30代、40代)、組織の活性化のためにはインターネットの活用を進めるべき。今後高齢層も利用率が高くなる見込み。
 - ・PV-Net News等の紙媒体による情報伝達の頻度、内容は維持する。
- ②会員個人に属する情報その他の秘匿を要する情報の厳正な管理(定款60条)、情報管理規程による管理が必要(個人情報、顧客情報、経営情報、営業情報について対外秘、関係者限り等で管理)

4. 技術的課題

- ①既設Webの現状
 - データベースと連携するなど専門的知識を必要とし、改造、改修が困難。
- ②別棟建築方式を志向
 - データベースと連携を要しないものは、運用管理の楽な方式で新しく構築する。
- ③会員エリアは会員データベースによりアクセス権限を付与している。専門家の協力が必要。

5. 検討体制、検討期間

- ①検討委員会の設置
- ②普及広報部会を中心として、事務局、関係部会・相談室、有志等が参加
- ③2009年春までに結論を(茨城地域交流会 大塚寿生)

PVResQ! ~準備隊長のつぶやき~

PVResQ! 準備隊長 加藤和彦

■本当の「私の視点」——朝日新聞でいたかったこと

話は少し古くなりますが、今年の5月15日の朝日新聞朝刊オピニオン欄(「私の視点」)で、PVの保守・点検に関する問題提起をさせていただきました。しかし、紙面の制約から論点のすべてを掲載してもらうことができませんでした。

そこで、今回はこの場を借りて、掲載されなかった本当の「私の視点」をご紹介します。

◆PVシステムの「品質」

昨今、食品や建築構造物、再生紙などの工業製品の品質問題が私たちの生活を脅かしています。このような状況の中で、私は自分が研究対象としているPVシステムの品質について、改めて問い直しています。一般にPVシステムには環境に優しいという選好的なイメージがあり、それは技術論としては間違っていないでしょう。しかし、その工業製品としての品質はイメージと区別して議論されなければなりません。

一般社会において、PVシステムの品質とはどう考えられているのでしょうか。おそらく「発電効率」と考える国民が多いのですが、実はそうではありません。たとえば、ここにともに発電容量4kWのPVシステムがあったとしましょう。価格は同じで、一つは発電効率20%のパ

ネル、他方は効率10%のパネルを採用したものです。さて、皆さんはどちらを購入しますか? 大多数の方が効率の高いパネルを選ぶでしょう。しかし、実際はどちらも4kWですから基本的には同じ日射条件では同じだけの電力しか生み出しません。発電効率の良否は4kW分のパネルの面積に影響するだけです。

国土の狭隘なわが国では、今後とも住宅分野へのPVシステムの普及が鍵となりますので、そのユーザとなる国民一人一人の理解が大変重要です。これは比較的規模が大きく事業として導入されることが多い風力発電などとは本質的に異なるPVシステムの特徴の一つです。したがって、PVシステムの品質は、それを使う国民の観点から議論されなければなりません。PVシステムが国民に提供しなくてはならないのは、それが生涯に生み出すクリーンな発電電力です。したがって、過酷な屋外環境下でいかに長期的な性能を維持できるかということが、より重要なPVシステムの品質だと思うのです。

◆PVシステムの保守点検の現状

しかし、現実のPVシステムは、これまでの一般家電製品にはないいくつかの特徴をもった工業製品であるために、ユーザ自身

がPVシステムの「品質」の良否を判断することができない技術です。

まず、第一にパネルが屋根上というユーザの視野外にあり、運転中は無音・無可動であるということ、第二に発電電力が気象条件に応じて時々刻々と変化すること、第三に同一製品であっても設置地域や設置姿勢、陰となる周辺障害物の有無などによって発電量が異なること、そして、最後に運転に際してユーザが操作をするということがほとんどないこと、です。

実際に、約4年前に当所に設置されたPVシステムでは、およそ5,600枚のパネルのうちのおよそ110枚、211台のパワーコンディショナのうちの約20台がすでに交換されており、今なおその数は徐々に増加しつつあります。また、昨年実施された一部システムの業者点検ではパネル・パワーコンディショナとも故障なしの結果でしたが、その中には私が別に行った調査でわかった不具合パネルが数枚含まれていたのです。点検は業界が推奨する保守・点検ガイドラインに則って実施されたのですが、これで点検と言えるのでしょうか。

結局のところ、PVシステムについてはメンテナンスの必要性が十分に認知されておらず、法的な義務付けもないことから、定期的な保守点検の実施は徹底

されていません。また、現行のガイドラインに示されている点検項目も、故障の有無を積極的に見つけるには不十分な水準であり、技術者の意識・知識、装備も不足しているのです。PVシステムも人間のつくる工業製品であるからには保守は不可避だと思います。ましてや過酷な屋外環境下で20年以上の運用が期待されているのです。現場での性能把握が難しいことを理由に、行政も業界もそれを避けているということはないでしょうか。

◆PVResQ!

このような問題意識から、私は3年ほど前からPVシステムの耐久性や故障診断方法の研究を始め、その基本情報を得るためにPVシステムの実性能調査を実施しています。そしてこの活動がPVシステムの信頼性・安全性・持続可能性の向上に役立つことを祈って「PVResQ! (PV-Reliable, Safe and Sustainable Quality!)」というニックネームをつけています。メンテナンスフリーを標榜して普及を進めてきたこともあってでしょうか、残念ながら、政府、業界、そして身近な周囲の理解は十分ではありません。一部にはただのボランティアだと曲解している者までおり、今のところ公的な研究予算はありませんが、まさに「捨てる神あれば拾う神あり」とはこのこと、この研究活動に賛同してくれた多くのユーザからの寄付金に支えられ、わずかずつではありますが故障事例が蓄積されてきました。その多くは保証期間内のパネルであり、ユーザさんに驚かれる場合もし

ばしばです。

これからも地道に調査を継続し、実用的な故障診断方法とそれを支える社会システムを提案していきたいと考えています。

◆PVシステムは産業政策ではなく環境・エネルギー政策

最近の国際統計では、わが国が占めていたPVシステム普及量世界第一位の座を独に奪われ、また、太陽電池の生産量第一位も日本から独の企業に取って代わられたようです。これは日本の新規産業振興政策の観点では由々しき問題でしょう。実際、経済産業省や環境省は世界一の座を奪還するための施策を来年度から実施するようですが、これも誤った考え方だと思います。陸上競技でいえば、PVシステムの普及は100m走や200m走といった短距離種目ではなくマラソンです。そして、各国走者は集団のままようやくスタジアムを出ようとしているところなのです。そのような状況で順位の上下をいってどのような意味があるのでしょうか。最も重要なのは日本が他の国と手を携えて再びスタジアムに戻ってくるができるかということなのではないでしょうか?

また、エネルギー技術政策の観点で私がもっと心配しているのは、太陽電池という工業製品の生産や普及に関する統計がある程度整備されているのに対して、国内に導入されたPVシステムから得られたクリーンな発電電力量に関する統計が全く未整備で、これまで国民の血税によって研究開発と普及を進めて

きたPVシステムからの発電量を誰も正確に把握していないということです。

とうとう今年から京都議定書の第一約束期間が始まってしまいました。導入されたPVシステムによる温室効果ガス抑制効果をどうやって算定するのでしょうか。それとも、はじめから無視する気なのでしょうか。

◆PVシステムの研究開発行政に求められる方向転換

PVシステム普及の黎明期には、研究開発と普及政策とが機関車となって社会を牽引してきましたが、いまその機関車はおよそ40万というユーザを客車に乗せてさらなる未来へ向かっています。にもかかわらず、いまだに飛躍的な効率向上を目指した太陽電池の研究開発ばかりに莫大な税金が投入されています。やや極論かもしれませんが、いまや太陽電池の研究開発は民間主体で進めてもらってよいのではないかと思います。効率が高く安価な太陽電池を開発することがそのまま民間企業としての利益に繋がるわけですから。

これからは高額なPVシステムを購入する国民が、その効用を安心して謳歌するための品質向上のための取り組みにこそ税金を投入するべきでしょう。

それはつまり、PVシステムの列車の乗客が快適にその旅を楽しんでいるかを最後尾で心配してくれる車掌の役割です。しかし、残念ながら今の列車にはその車掌は同乗していません。

私の目下の目標は、PVResQ! が早くその役割を果たせるようになることなのです。

各地の発電量データと太陽光発電所マップ



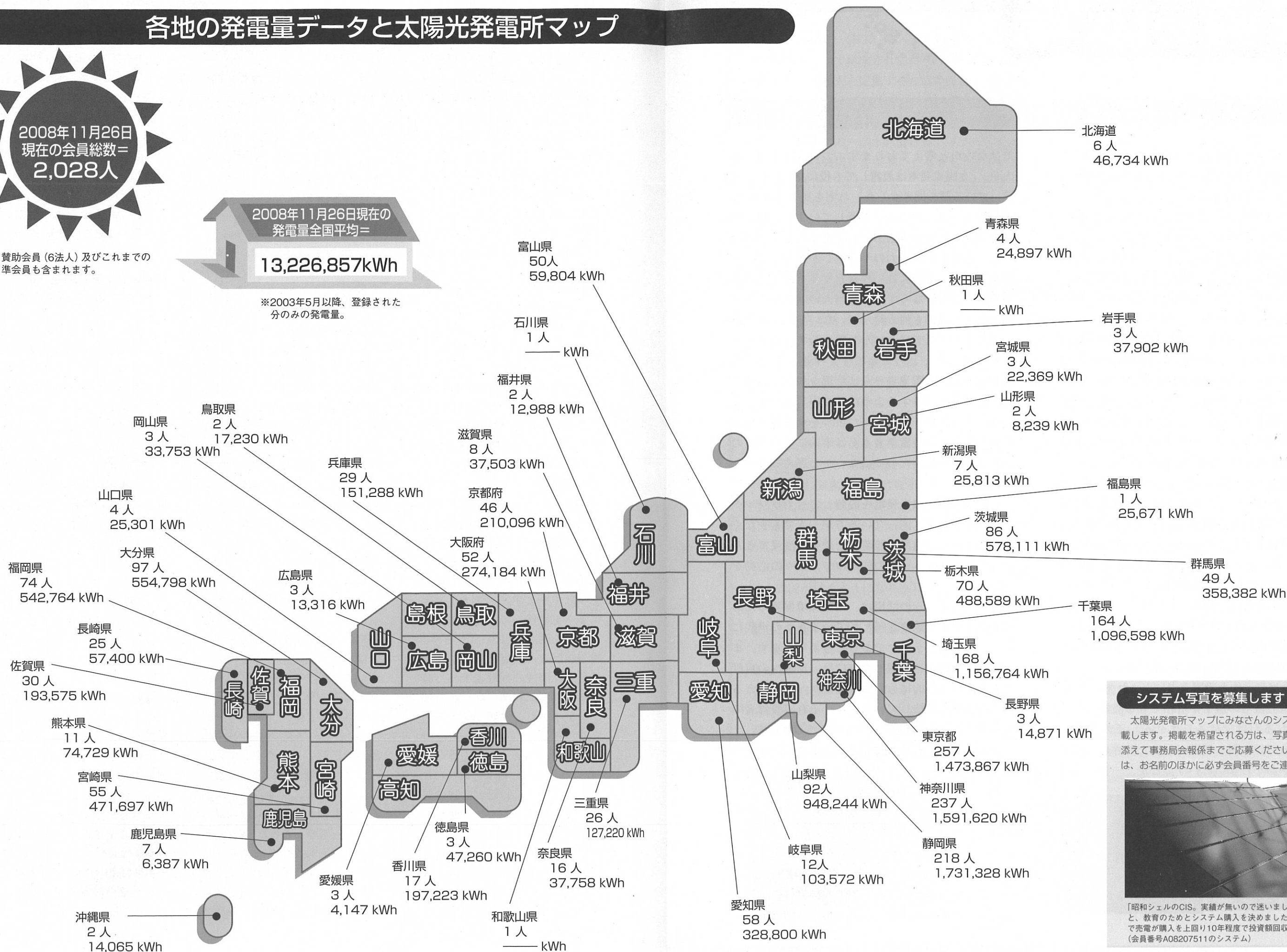
2008年11月26日
現在の会員総数=
2,028人

※賛助会員(6法人)及びこれまでの
準会員も含まれます。



2008年11月26日現在の
発電量全国平均=
13,226,857kWh

※2003年5月以降、登録された
分のみの発電量。



システム写真を募集します

太陽光発電所マップにみなさんのシステム写真を掲載します。掲載を希望される方は、写真にコメントを添えて事務局会報係までご応募ください。ご応募の際は、お名前のほかに必ず会員番号をご連絡ください。



「昭和シェルのCIS。実績が無いので迷いましたが、地球環境と、教育のためシステム購入を決めました。発電効率良好で売電が購入を上回り10年程度で投資額回収できそうです。」
(会員番号A08207511のシステム)

四国に地域交流会を立ち上げよう

【香川県 丸岡忠輝】

PV-Net本部より四国地区の現状を書いていただけないかという依頼がありましたので、香川県の動きを中心に報告します。

私が太陽光発電を設置したのは5年前ですが、PV-Netの存在を知ったのは1年半位前のことです。私宅の設置業者さんからその存在を聞き、昨年春に入会しました。入会当時は、入会さえしておけば何かあったときに相談できるという程度の軽い気持ちであり、グリーン電力の手続きもしない状態でしたが、香川県の環境政策課の方と知遇を得たこともあり、TV局の環境番組の取材を受けたり、グリーン電力の活用法を聞いたり、新規会員募集のイベントに参加させて頂き、そこで多くの方々と話をする機会を得た中で、PV-Netの活動内容が理解でき、私自身も少しでも活動のお手伝いが出来ればと考えるようになりました。

四国地域での会員第1号は、香川県高松市にお住まいの高松さんです。高松さんをはじめとする先輩方の努力の成果もあって、現在は会員数が約20名まで増えました。会員の皆さんの協力のなか、2007年11月には会員増強活動、2008年2月には「エネ博2008in四国」への出展、11月には「ソーラーフェスティバルin綾川」へのイベント参加等、本部からの指導をいただきながら、四国内でPV-Netの活動内容を知っていただくため、会員の皆さんの活動の輪を徐々に広げてまいりました。

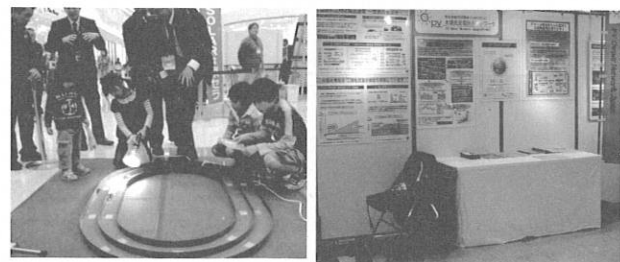
私の場合は良心的な設置業者に恵まれましたが、太陽光発電設置者の誰もが信頼できる設置業者さんに恵まれるわけではありません。そのような方々にとっては、何か問題が起きたときに相談できる場所がわからないということが、一番の問題

ではないかと考えております。つい最近も妻の知人が、「太陽光発電は設置しても役に立たない」と言っている話を聞きました。お宅を見せて頂くと、80枚のソーラーパネルを設置していましたが、パソコンの1台は故障表示が出て全く発電していないし、もう1台は能力の半分位しか発電していませんでした。電力会社の検針票を見ると2年位前からこの状態になっており、当人の話では「取扱説明書も保証書も何も貰っていないし、調子が悪いようなので見てほしいとお願いしても何もしてくれなかった」とのことです。早速、私も立ち会った中で、設置業者さんに状況を説明し、持ち主には早期に対処するように強く申し入れをしました。その結果、ソーラーパネルを全数取り替えたそうですが、設置業者さんは事前にトラブルの内容を把握していたのではないかと思えるような対応でした。

このように太陽光発電を設置してもトラブルへの対応が判らずに困っている方が一人でも少なく、太陽光発電所を設置した効果を楽しめるようになって欲しいとの願いつつ、日々の活動を心がけております。

自然エネルギーの活用は、地球環境保護のためCO₂排出抑制を緊急課題としている我々の世代にとって、大切なテーマであると考えています。また、太陽光発電を設置した方には、環境への貢献はもとより経済的にも設置してよかったと思えるような効果を期待していますし、それが設置者の輪を広げる一番の近道であると考えております。

そんなこともあり、2008年8月、香川県の環境政策課から『新エネルギー導入促進実行委員会』の創設に際して、既設置者の声を反映させるため、PV-Netの一員として委員に加わってほしいとの依頼を受け、本部に相談の上、当該委員会のメンバーとして活動を始めることになりました。この委員会は、事務局である香川県を主体に香川大学・四国経済産業局・中四国地方環境事務所高松事務所・香川県地球環境温暖化防止活動推進セン



太陽熱温水器発電とパネル

ター・四国電力(株)・ソーラーメーカー・ソーラー販売企業等で構成されており、香川県内の自然エネルギーの導入を促進するための提言・活動を行うための組織です。具体的な活動の第1歩として、11月7日(金)～9日(日)までの3日間、県内のイオン綾川店の一部をお借りして『ソーラーフェスティバルin綾川』を実施いたしました。PV-Netとしても本部の協力のもと、パネル展示及びソーラーカーをサーキットで走行させました。私も3日間のお手伝いをさせて頂きましたが、ソーラーカーは子どもたちに大人気で、PV-Netにも大いに関心

を持っていただくことができました。数人ではありませんが、入会の手続きを希望する方も現れ、楽しく充実したイベントになったと喜んでおります。

香川県の場合は、県行政としても『太陽光発電』『グリーン電力の活用』に力を入れており、これらの諸要請に応え協力体制を整えるためにも、今後は「個人」から「組織」としての活動に移行したいと強く願っております。本部・先輩地域交流会の支援・協力を得て、地域自治体等からの要請にも十分対応できる組織となるためにも、1日も早い『地域交流会』の発足を希望しております。

カーボンオフセットを買いました

【茨城地域交流会 石塚 猛】

先日群馬を排ガス基準車で往復。それでもガソリンを80リットルも消費。排出したCO₂は200kg。なんと小錦一人分の重さであり、直径1メートルの風船が200個分にもなる多さです。これを埋め合わせたいと、日立市内のローソンで、CO₂・200kgのカーボンオフセットを買ってきました(2008年4月からローソンで買えるようになりました)。

写真1は、そのお金が、日本政府承認のアルゼンチン風力発電事業に出資する国連の日本国割り当て量口座に移転したという証明書です。代金は1,050円でした。ガソリン81リットルのオフセットが1,050円ですから、1リットルあたり12円です。このように、2008年から排出したカーボン(炭素)にも値段が付くようになりました。

■もっといいカタチでフェスタに使えないか?

「なぜアルゼンチンなの? それ日立市ならもっといいのに」…実は今度のフェスタで排出するCO₂を自然エネルギーでオフセットし、それが日立市民の自然エネルギー資金に移転できればいいなと思って調べました。2日間のフェスタで使う電力量1,000kWhを日立市民の太陽光発電でまかな

えればいいなと…それができるのです。特定非営利活動(NPO)法人 太陽光発電所ネットワーク(PV-Net)から、PVグリーン電力証書という証明書を買うだけでそれができます。

実際の電気代の他に用意する費用は、複数年契約で12,000円です。このフェスタは日立市民の太陽光発電でまかなわれているという公的認証機関の証明書が買えます。「自然エネルギーの環境価値を買う人は、自然エネルギーから作られた電気を使っているとみなされる」というルールが生まれたからです。削減の努力をしても、なお削減困難なカーボン(炭素)を、自然エネルギーでオフセットできるのです。

写真1の証明書をフェスタで展示し、この証明書を買うことにより削減したCO₂を大きな風船にしてフェスタの会場に置けば「地産地消の効果」が見えるカタチで市民にアピールできます(1,000kWhの電力量だと直径1メートルの風船がなんと約700個分! 上の風船の写真を100枚並べて展示するのも一つのアイデアです)。

野菜の産地を選ぶように、この証明書により、地産地消的に、地元の太陽光発電の設置を支援することを検討しています。

今まで気付かずにいた「地産地消」というキーワードが、実は大きな「環境価値」を含んでいることが、このことからお分かりいただけたと思います。

※「カーボンオフセット」とは、排出削減努力をしたうえで、削減困難な炭素量を他の方法で埋め合わせることです。



直径1メートルの風船でCO₂約1kg。アジア・太平洋水サミット会場(朝日新聞)



写真1:カーボンオフセット証明書

● 栃木地域 ●

～栃木もイベント盛りだくさん～

早いもので、今年も1年が終わろうとしています。

栃木の地域交流会も、多くの人たちに会の存在を知ってもらおうとイベントの参加を中心にこの1年間活動を続けてきました。県の「涼感まつり」、宇都宮市の「環境2008宇都宮」、足利市の「あしかがクリーンアップフェア2008」など行政主催のいくつかのイベントに参加をさせていただきました。

ほかの活発な地域交流会に比べると、まだまだ活動が不十分ではありますが、私たち世話人が慣れないなかで会員の皆さんや行政の担当の方たちに助けられながらもやっていくことができました。

一番の大きな収穫は、県主催のイベントで、県の担当部署が初めてグリーン電力証書を購入してくれたことです。

他都府県では行政、民間ともに地球温暖化防止活動のために、イベントを中心にその会場で使用する電気の一部を太陽が発電したクリーンなエネルギーを使用することが増えつつあります。

栃木でもようやく「涼感まつり」を皮切りに、行政やその関連団体がグリーン電力に目を向けてくれるようになり、2008年度は現在までに3件の取り引きが成立しました。地球温暖化防止やCO₂削減など、市民レベルでの啓蒙活動を維持しながら、会としての発展のためにより多くの会員を獲得することが大切であり、また、地域交流会の財政的な自立も考えていかねばなりません。

イベントの参加にあたっては、事務局スタッフの方々に全面的なバックアップをいただき、また、静岡地域交流会からは展示グッズをたびたびお借りしました。あり

がとうございました。

(栃木地域交流会 吉永光伸)

● 千葉地域 ●

～今年もエコメッセに出展～

9月7日、幕張メッセで行われた環境活動見本市「エコメッセ2008 inちば」に今年も出展。通算5回目となりました。

今回は主催者側にPV-Green電力証書2,000kWh分(去年の2倍)を購入していただきました。これは昨年より出展者数が10%以上増え、ブース確保から会場を広く使うことになり、予想消費電力を2倍に見積もったことによるものです。もちろん地元開催ということもあり、千葉県産でした。「グリーン電力」という言葉も段々と存在感を増しているように感じられ、うれしく思っています。

私は今年からエコメッセ実行委員になったため、自ブースの方にいることがほとんどできず、ブースは他の世話人の方に全面的に任せ、主催イベント企画の裏方として走り回っていました。

今回の出展ではソーラーマイレージ予算で作成した展示パネル3枚(太陽光発電の特徴をアピールしたもの、PV-Green電力を説明したものが初お披露目となりました。このパネルはA1サイズで見栄えが良く、何より設置にかかる時間が短縮される点が良いところです。そ



出展ブース風景

他にも充電式のミニカーや手回し発電機などのグッズも並べ、ブース周辺は子供たちで賑わっていました。

主催者側発表で来場者数は9,000人強でした。

(千葉地域交流会代表 宮下朝光)

● 埼玉地域 ●

～「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」に登録しました～

埼玉地域交流会は、イオングループが展開している「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」の登録ボランティア団体となりました。イオングループでは「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」という企業理念のもと、企業市民として地域のお客さまと共に様々な環境保全活動に取り組む一環として、上記キャンペーンを展開しています。

このキャンペーンは、毎月11日「イオン・デー」のレシート用紙を黄色に変え、お客さまがレジ精算時に受け取った黄色いレシートを、登録ボランティア団体の名前が入った投函箱に入れて頂き、そのレシート合計金額の1%相当の物品をその団体に寄贈することによって活動を助成するものです。レシートの集計は年2回、2月と8月の下旬に行われます。

埼玉地域交流会では、9月よりさいたま市の「大宮サティ」に団体登録をしました。大宮サティ店には20の団体が登録しており、現在はレシートの投函を心待ちにしているところです。さいたま市近郊の会員の方々は、ぜひお買物は11日に大宮サティで行い、PV-Net埼玉地域交流会の投函箱にレシートを入れていただくようお願いいたします。また、会員の方々もお知り合いの方々に、ご協力いただけ

るようお願いいたします。

このキャンペーンはイオンの全店舗で展開しており、1団体につき1店舗での登録しかできません。他の地域交流会の皆さんも、地元のイオングループ店舗に登録されることをお勧めします。なお、登録にあたっては、直近6カ月の活動実績報告やイオン担当者による活動状況視察などの審査もあります。これを機に、各地域交流会ごとに獲得額を競うのも面白いのではないのでしょうか。

(埼玉地域交流会副代表 國井範彰)

● 東京地域 ●

～盛りだくさんのイベント報告～

今秋の東京地域は、昨年同様イベント活動が盛りだくさんでした。

まずは今年初めて中野区の委託事業を受け、9月28日に中野区野方地域センターにおいて講演を、10月3日には川島商店街内にあるコスモステーションカワシマげんき村でパネル展示を行い、両日ともに太陽光発電の良さをアピールしてきました。

10月4日には昨年同様放送大学の下馬路に参加し、「太陽光でドン」で多くの参加者に楽しんでいただきました。

10月26日には日野市健康&くらしフェア、せたがや環境行動DAYにパネル展示を、11月1～2日にはライフフォーラムスタイルにも参加し、パネル展示と小型PVを使った模型の販売とその場での組み立てるワークショップを行いました。

このワークショップの試みは初めてでしたが、ライフフォーラムスタイルの来場者に小学生が少なかったことと、模型を前に置いてしまったため太陽光の普及と言うよりは模型屋さんようになってしまい、今後の展示方法には工夫が必要ということが分かりました。

また、夏にサッカーのJリーグでPV-Greenが使われた実績をヒントに在京クラブにメールで問い合わせたところ、東京ベルディより「前向きに検討したいので説明して欲しい」との回答が届きました。早速、東京代表と都筑事務局長とでクラブハウスを訪問し(ラモス瑠偉GMにもご挨拶しました!)、11月23日のコンサドーレ札幌戦に日野市サンクスマッチとして日野市産を中心にしたPV-Greenを使いたいとの意向を聞くことができ、その後契約することができました。

この時には「来期のホームゲーム全てにPV-Greenを使いたい」というようなお話もありましたが、J2に降格(記事を書いているのは12月初めなので残留争い真最中!)になれば、予算削減で無理かもしれません。がんばれ、東京ベルディ!

このように今年も例年通りイベント中心の秋でしたが、来期は区市の委託事業を多く受託できるよう、またJリーグ等へ働きかけPV-Greenを使ったイベントを企画するなどの活動をしていきたいと思っています。

(東京地域交流会 高柳良大)

● 神奈川地域 ●

～各種イベントへの参加報告～

2008年度の新エネ・アドバイザー事業及び、各種イベントへの参加状況をご報告します。

・6月1日(日)

「はやま環境フェスタ」に出展。新エネ・アドバイザー事業の相談コーナーを設置しました(葉山町後援)。

・6月15日(日)

新エネ・アドバイザー事業、説明・相談会を開催(藤沢市後援)しました。

・6月30日(月)

神奈川県環境計画課依頼の出前授業として、コープかながわ谷戸入口店・リサイクルの会主催の勉強会として、PV-Net神奈川が実施する新エネ・アドバイザー事業の説明および相談会を開催しました。

・9月21日(日)

新エネ・アドバイザー事業、説明・相談会を開催(横浜市後援)。

・10月18日(土)

「ほどがや区民まつり」保土ヶ谷近隣グループに協力し出展し(毎年参加)、新エネ・アドバイザー事業の相談コーナーを設置しました。

・11月1・2日(土・日)

神奈川県・「地球環境イベント・アジェンダの日2008」に出展。

新エネ・アドバイザー事業の相談コーナーをも設置しました。

今後の活動予定は、以下のとおりです。

・12月13日(土)

新エネ・アドバイザー事業の説明・相談会の開催(小田原市後援)。

・2009年1月17・18日(土・日)

あつぎ環境市民の会主催「みんなの環境展」に出展。

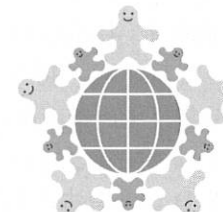
・1月24日(土)

新エネ・アドバイザー事業の説明・相談会「フォーラム神奈川2009」(いずれも横浜市後援)に参加。

・1月31日(土)

鎌倉市主催「地球温暖化対策フォーラム」に参加(鎌倉市の要請)。以上ご報告申し上げます。

(神奈川地域交流会 横谷公雄)



● 山梨地域 ●

～ライトダウン甲府バレーに参加～

2008年10月25日(土)に甲府盆地内で行われた、「第10回ライトダウン甲府バレー」に参加し、星空観望などのイベント会場として甲府市住吉公民館会場と、笛吹市岡地区のふるさと公園会場を担当しました。

毎回恒例の夜8時～9時までのネオンの消灯は、昨年約500の企業・団体が参加してくださったものが、今年は約1,000カ所に増え、ライトダウンは確実に進んでいます。しかし残念ながら曇り空で星はあまり見えませんでした。

メイン会場の県立科学館には、甲府東中学校出身の宇宙飛行士の土井隆雄さんと、今回のライトダウンのテーマソング「星つむぎの歌」を歌っている平原綾香さんがゲストとして参加してくださり、多くの県民に関心を持ってもらえました。今回は残念ながらあまり見られませんでした。来年の星観測が楽しみです。

さらに山梨地域交流会では、これまでの活動形態を変えて、組織としての活動ができるように会の立て直しをかかっています。

12月13日(土)には、甲府市南部市民センターで行う他団体主催のセミナーに、PVネットとして参加。会員の参加および発表者を呼びかけたり、発電所長の交流会や新たにPVネットに関心を持ってもらう場として、この場を活かせるようにと考えています。

開催概要は下記の通りです。

- ・開催日：12月13日(土)
13:30～16:30
- ・会場：甲府市南部市民センター
- ・主催：NPO法人みどりの学校
- ・協力：NPO法人太陽光発電所

ネットワーク山梨地域交流会
・テーマ「発電所長さんあつまれー！ ～グリーン電力証書とカーボンオフセットの『いま』の解説と、風林火山自然エネルギー事例発表交流会～」

・内容：

1. みどりの学校共同発電報告
2. 講演『グリーン電力証書とカーボンオフセットの現状と課題』
講師：都筑建氏(NPO法人太陽光発電所ネットワーク事務局長)

・風林火山自然エネルギー事例発表・交流会

- 1) 事例発表
 - ①TDK株式会社
(300kW太陽光発電の実証実験)
 - ②コープやまなし
(総合的な取り組み)
 - ③飯島製材所
(ペレット製造など木質バイオマス)
 - ④個人の発電所発表
(PVネット会員)

2) 質疑応答・意見交換・交流会
以上、多数のご参加をお待ちしております。
(山梨地域交流会 芦澤公子)

● 静岡地域 ●

～ふじさんめっせで
県内最大の環境イベント～

富士山の豊かな恵みを次世代に引き継ぐため、市民・事業者・行政がパートナーシップを形成することを旨とした「富士市環境フェア」が12月6日、富士市柳島の市産業交流展示場「ふじさんめっせ」で開かれます。これは、併催イベントを合わせて100団体を超える出展で、県内最大級の環境イベントとなる大きな特徴です。環

境シンポジウムのほか、次世代自転車経験試乗会など盛りだくさんで多くの来場を呼びかけています。

これまでの環境シンポジウムから、市民参加型のイベントとしては2回目の開催。今年度は「多くの人へ広めよう！ 楽しい！ 快適！ エコライフ」をテーマに、出展団体を増やし、来場者5,000人以上を目標に掲げています。

今回は環境フェアへの出展が69団体。屋外の併催イベントに「太陽光発電所ネットワーク静岡地域交流会」ほか36団体が出展し、重複出展を抜いても102団体がブースを構える予定です。

これらの特徴を見ると、市民活動発表団体に対して協賛企業から活動支援金(商品券)が贈られるなど事業者と市民活動団体を結びつける試みだということがうかがえます。環境商品を開発・販売している事業者を、出展料無料で全国から公募し、市環境アドバイザーが選定した7社が出展。次世代低公害車の試乗、アシスト自転車の試乗、多数の店舗との省エネルギーフォーム相談で比較検討する「家庭の省エネ相談」などが挙げられる。

特設舞台では第8回環境シンポジウムを開催。有料ごみステーションやごみ減量ポスター・標語優秀者、地球温暖化防止ポスター優秀者、地球を考える環境家計簿・優秀家庭の各表彰、およびスマートファミリーの認定などが行われます。

(静岡地域交流会代表 山下正道)

● 中部地域 ●

～自然エネルギーの普及を～

中部地域交流会は月1回の世話人会をベースに、当面は岐阜県東

濃地域、愛知県東三河地域、三重県北中部地域のまとまりを作ろうとしています。また愛知県の「グリーン電力証書活用モデル事業」、「ありんこソーラーマイレージクラブ」、「田原市エコエネフェスタ」(7/27)、「環境デーなごや」(9/7)、「エコハウス交流会」(11/16)と委託事業や展示などの活動を進めてきました。現在は中部リサイクル運動市民の会と共同して「イルミネーション・グリーン化キャンペーン」を、昨年引き続き進めています。

特に「グリーン電力証書活用モデル事業」では、愛知県庁、岐阜県庁、三重県庁、中部経産局などとも関係を持つことになり、役所へ出かける機会がずいぶん増え、いろいろな対応が従来の回数や内容をはるかに超え、地域交流会としてもPV-Netの社会的役割をさらに確かめることが必要になっています。

会員さん向けの情報発信は「ありんこソーラーマイレージクラブ」と重なるのですが、会員さんと一層緊密な連携をとるためにも、ためになる情報や魅力ある中部地域交流会の活動の中身をどう創っていくのか、みんなで知恵を出し合いたいところです。

ソーラーマイレージクラブの委託事業は今年度で終わりますが、データの回収を通しての交流＝省エネアクションはこれからもPV-Netのひとつの活動のジャンルとして発展させたいと考えます。

今後、グリーン電力証書を活用したまちづくりはさらに広がると予想します。愛知県の委託事業をぜひ成功させ、PVの普及を加速させたいものです。

2008年度の補正予算で住宅用PVの補助金制度が復活しますが、新たな設置者にPV-Netの会員になっ

てもらえるよう、今から入会キャンペーンの準備が必要ではないかと思っています。

また“Make the Rule”のような市民の側からの全国的な地球温暖化防止のためのルール作りの運動に、地域交流会としておおいに参加して、いろいろな人たちと自然エネルギーの普及と利用促進に協同していきたいと考えます。

(中部地域交流会 三浦悦夫)

● 関西地域 ●

～多忙な日々が続いております～

現在も、まさに忙しく動き回っている最中です。

2008年4月、京都のビックカメラさんから「京都市産の太陽光のグリーン電力を購入したい」という要望がありました。京都府は長い間会員数が12名。市内では4名という状態でした。ビックカメラさんの要望に応えるためには、100名分の会員数の増加が必要となります。このため、説明会を開催したり、フォーラムを開催したり、業者さんを訪問したり、会員めぐりの企画をしたりと、少しでも会員拡大につながる活動をやってきました。その結果、現在数46名に。まだまだ目標値には達していませんが、これをきっかけに京都地域交流会の立ち上げも、1月の予定で進んでおります。

一方、関西圏のお隣「四国横断バスツアー、徳島から高知へ」を



活動の様子

12月開催で企画しました。四国全体での会員数は現在23名。私たちが関西を立ち上げるとき、東京からの応援がありました。いま私たちにできることをして、拡大の糸口と四国地域交流会の立ち上げのお手伝いを、と考えています。四国ツアーの目的地は高知県梹原町(ゆすはらちょう)。ちなみにこの町のキャッチフレーズは“雲の上の町”。自治体をあげて自然エネルギー活用に関心で、風車、バイオマス、小水力はもちろん、2,000戸の町に90軒もの太陽光発電の設置者がいるそうです。そして、1kwで20万円の補助金が町から出るのだそうです。

私たちは、このような活動を通して会員間のパイプを太く、風通しを良くしてこそネットワークの存在意義があるとの考えのもと、ユニークで心温まる会員間との交流を楽しんでいます。

(関西地域交流会 岸本康子)

● 九州地域 ●

～九州地域交流会の近況～

九州における今秋以降の活動について報告します。

①10月25日・26日の両日、佐賀市と福岡市でほぼ同時に開かれた環境イベントに参加しました。

佐賀市でのイベントは(株)佐賀ガス主催の「第3回たわわガス展」で、テント一張りのブースを借り受け、佐賀地域交流会のを中心にPV-Net全体の理念と活動実態を紹介しました。

福岡市でのイベントは市主催の「環境フェスティバルふくおか2008」で、昨年につづいて2回目の参加です。一つのテント・ブースを親交のある「NPO法人再生可能エネルギー推進市民フォーラム西日本」と仲良く分け合っ

示参加でした。今年はプロジェクトを持ち込み太陽光発電のあれこれについても宣伝しました。

②プロサッカーJ2のアビスパ福岡との友好を深め始めました。

7月13日のホームゲーム対徳島ヴォルティス戦は、PV-Green電力証書(3,000kWh相当)を使用した「エコマッチ」として行われました。もちろん証書購入はわがPV-Netです。そのお礼を兼ね、11月4日、アビスパ福岡本社を訪ねました。都筑興社長及び広報課長と親しく意見交換し、来年以降のPV-Green電力証書の活用をお願いしました。そして明後日(12月6日)、ホームでの最終試合となる対湘南ベル

マーレ戦を、PV-Netの幟を脇に抱えて観戦します。

③九州地域交流会独自のホームページ開設と会報発行を、来月中に実行に移します。経費を抑えるため、会報の発送は電子メールとFAXを主とし、郵送・宅配を従とするつもりです。

(九州地域交流会副代表 松隈一輝)

● 佐賀地域 ●

～3年目を迎えて～

佐賀地域交流会は、平成18年5月に設立フォーラムを開催して発足しました。今年で3年目を迎えています。発足当時に県から引き

受けた「平成18年度佐賀県太陽光発電トップランナー推進事業」も現在は最終段階を迎え、今年度中に完了する見込みです。この間、事務局長の都筑建様はじめ事務局の方々や、佐賀県、九州地区の多くの会員の皆様方に強力な手助けをいただいたおかげでここまで来たと思っております。

また、私たち佐賀地域交流会は昨年度からソーラーマイレージ事業に参加しており、昨年度は30名の方々にデータの提供を、また今年度は40名の方々にデータの提供をしていただいております。この事業に参加したおかげで、私たちが日常の家庭生活の中から排出す

るCO₂の量をKg単位で実感でき、省エネ意識が高まったように思います。今年はこの事業の中でソーラーマイルを紹介する啓発用冊子も作るようになっており、現在編集集中です。この冊子ができあがりしましたら今年度のフォーラムを実施し、皆様にも見てもらおうと考えています。

今年、洞爺湖サミットの関係もあり、佐賀県内でも温暖化防止関係のイベントが多く、私たちの

出展の機会も多くなりました。7月5日～6日の三瀬プラネットジャム、8月2日～3日の栄の国まつり、9月13日～14日の住まいの応援フェア、10月13日のハウジング・パティオ環境イベント、10月25日～26日佐賀ガス展、11月15日の鳥栖ジョイフルタウン、今後も12月13日～14日佐賀ユメタウンでのイベントが入ってきています。

最後にご紹介です。

開所以来ずっと佐賀事務所で事務をしていた中山晴美さんが、今年の春、ご自身のご都合で辞められました。かわって現在は佐藤公子さんが事務所に詰めています。「佐賀県の事務所にくわえて、九州広域の事務も行なっていますので、てんてこまいですが、よろしくお願ひします」とのことですので、今後もどうぞよろしくお願ひします。

(佐賀地域交流会 西森秀夫)



佐賀ガス展での様子

～佐賀県の窓口は、PV-Netが担当します～

■2008年度 補助事業概要

年明け早々、2008年度の追加補正予算として住宅用太陽光発電導入支援対策費補助金事業(以下「補助金事業」)が開始されます。

前回の補助金廃止後、大幅に後退していたPV普及が問題懸念があるものの、新たな展開に向かうものと期待されます。

補助金事業の概略は右図の通りです。

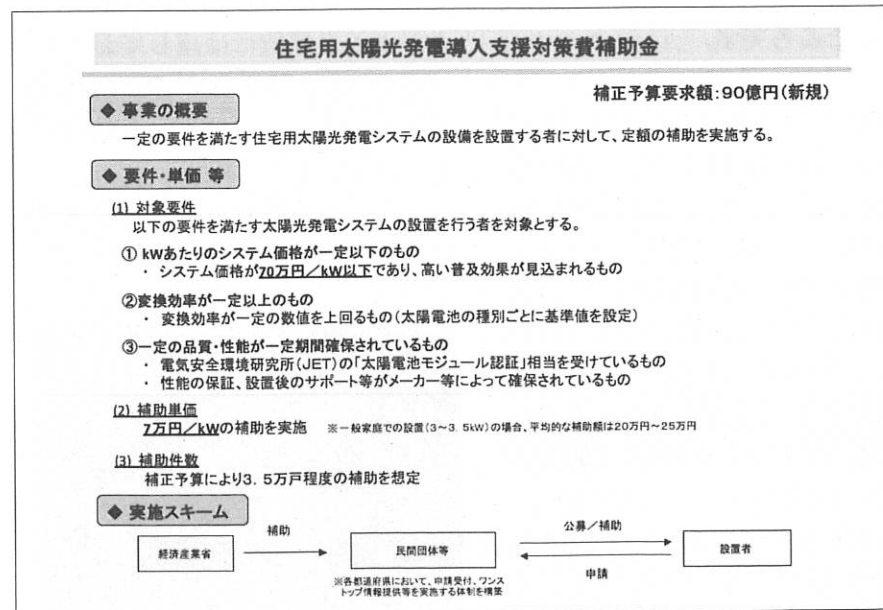
この中で「都道府県の窓口」として佐賀はNPO法人PV-Netが佐賀県の推薦を受けて窓口業務の委託を受けました。佐賀県内に居住し、本補助金の申し込みを希望する住民の申請受付窓口業務及び設置者に対する調査業務が求められています。

- 1) 補助金交付申請の受付業務
- 2) 実績報告の受付業務
- 3) 設置状況の確認業務
- 4) 関連補助等の情報提供サービス業務
- 5) 住民からの問い合わせ対応業務

- 6) 有限責任中間法人太陽光発電協会(J-PEA)の中に設けられたJ-PECとの情報共有業務
- 7) その他、本補助金事業の推進にJ-PECが必要と判断した業務

委託期間は2008年12月16日より2009年3月31日です。国の補助事業の一端を担う点で重要です。

(事務局長 都筑 建)



PV-Net川柳は、サブプライムローンの影響か、はたまたリーマンショックか、不景気風の影響を受けている。

晩酌を 発電量に 託すなり
(埼玉・WIXYZ)

この心境は、会員各位も同感だろ。このコーナーは、何となく続いて十五回となった。お馴染みの川崎の五右衛門さんの名川柳をご紹介しよう。

太陽光 政治の姿勢が 行方決める
政策が CO₂減量の 鍵握る

五右衛門さんが添えてくれたコメントを紹介しよう。

「今回は厳しく政治に視線を向けてみました。地球規模の発想ができる政治家の存在は期待薄ですが、それを選ぶのはここに暮らす一人ひとりである事を、日本人自らが放棄してしまっているようなのが心配です」

太陽が 温暖化なりと 風は言い
(埼玉・WIXYZ)

夏が来なかつたり、曇った日が続けば地球の温暖化はなくなるのでは、と

長屋の与太郎が言っていたとか。イソップ童話ではないが、北風と太陽の話の思い出す。

閑話休題。

(株)日本エコシステムのホームページに、毎月エコ川柳コンテストが掲示されている。十月の題は「太陽と省エネ」で、次の三編が入賞している。最優秀賞が「ええんちやうかうか オープンカーより ソーラーカー」 優秀賞二編は「太陽光 集めて家計に 日差し射す」と「ソーラーの 発電気になる空模様」である。因みに優秀賞は「キャンドルナイト」で、優秀賞は「クレア2個入り」とのこと。わがPV-Netは財政事情(?)もあって、賞品はない。

本題に戻る。で、ここで一首。

賞品は PVグリーンと 青い空
(埼玉・WIXYZ)

PV-Net川柳は、太陽光発電に関わることを五七五調で詠んだものなら、それでいいのです。次号で、あなたの川柳とお会いしたいですね。

川柳は、ハガキ、Eメール等で事務局までお願いします。

(担当・普及広報部 松田廣行)

2008年度第1回理事会

- 日時：7月12日(土)
14:00~16:30
- 場所：湯島総合センター
- 参加者：理事11名、オブザーバー2名、事務局2名

総会を終えて初めて開催された理事会では、まず年間スケジュールと運営体制が確認され、部会理事より今年度の重点活動の再確認と各地域への要望が伝えられました。

財政部からは、資金繰りが厳しい中、1年間の活動を乗り切るには、パナー広告の獲得や賛助会員の拡大、協賛金活動の必要性が伝えられました。

組織部からは、会費の支払いが遅れている会員を、地域の世話人会でフォローしていく方針が出され、地域に協力が依頼されました。また、相談室からは、PVカルテ・発電量の登録を充実させるため、各地相談員を中心に、世話人会でのフォローアップがお願いされました。

その他、メーリングリストの管理方法が理事会で承認されました。

2008年度第2回理事会

- 日時：11月7日(金)
13:00~16:30
- 場所：湯島総合センター
- 参加者：理事9名、事務局2名

【審議事項】

地域交流会ごとに、賛助会員3団体を獲得していくこと、賛助会費収入のうち3分の1が、地域の活動費となること(初年度のみ適用)が決まりました。また、各地域活動の情報交換を主目的として、12月中に地域代表者会議を開催すること、地域でパナー広告掲載希望者を募っていくことが決まりました。

【報告】

9月につなぎ融資を借り受けた案件は、財政部より正式に報告され、理事会で承認が再確認されました(融資の事前に、電子メールで全理事の承認は受済)。

組織部からは、地域の動きとして①山梨地域で、渡辺正己前代表の辞任を受け、芦澤公子新代表が決まったこと、②来年1月に京都で地域交流会を立ち上げる動きがあり、四国ブロックでも熱心な会員が核となり交流会立ち上げの機運がある、との報告がありました。

事務局からは、各省庁・自治体で予算化が計画されている太陽光発電の普及・拡大に関する事業が紹介され、PV-Netも参画の可能性が話し合われました。

また、葛飾区でグリーン電力証書化事業(補正予算・PV-Net受託)が始まったとの報告がありました。

(事務局 伊藤まき)

財政部

11月に入りめっきりと寒さが増してきました。PV-Netも上半期の締め切りの時期が来て各地域から続々と会計資料が送られてきております。ご多用の中、地域会計担当の皆様には感謝を申し上げます。

さて、今年も半ばとなりましたが引き続き厳しい会計状況は続いております。PV-Net一丸となり、この状況を乗り切らなくてはなりません。

昨今、地球温暖化が毎日の話題になる中、最良の方法の一つである太陽光発電普及啓発のため、特に今年度は国や自治体の事業も活発に動いております。これらに手を挙げて参入されている地域交流会も増えました。しかし反面、皆様もご存知とは思いますが、NPOの委託事業や助成金には用途や目的の決まったものに対して支払われます。事業収入は何にでも使え

るものではありません。先払い、精算払いなどの関門もあります。そして大きい成果を求められます。担当される地域の皆様のご負担と気遣いは大変なものだと思っております。そのため財政部より会員の皆様をお願いしたいことは、組織部からもお願いを発信しておりますが、会員の拡大にご協力くださいということです。この会の活動に賛同していただける賛助会員の募集、寄付金・協賛金、パナー広告などの獲得にご協力をお願いします。是非とも活動に関心をもたれるお知らせをご紹介ください。これらは用途の決まったものでなく、PV-Net全体の活動のため、柔軟性を持つ運営資金となります。

もう一つお願いなのですが、年会費未納の方に地域の世話人より会費の納入のご連絡を差し上げております。年月の速さに「ひょいっ」と忘れてしまうこともあります。ひょい忘れ防止に銀行口座引き落としもあります。是非ともご利用をお願いいたします。

2008年度は総会に掛けられました決算時期の変更も行われます。下半期に向け総力を挙げてまいります。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

(財政部 関沢ひろみ)

普及広報部

①第3回新エネルギー世界展示会に出展しました

7月30日~8月1日までの3日間、東京ビッグサイトで開催されました。番場普及広報部員をチーフとして、広く提供されたスペースを十分に活用、PV-Netのアピールや太陽光発電の啓発活動が活発に行われました。応援頂いたボランティアの会員の皆様に感謝致します。

②『パナー広告』の募集が具体的に立ち上がりまして

これは、PV-Netのホームページ

のトップに、掲載料をいただいて広告を掲載するものです。松田普及広報部員がチーフとなり、広告掲載基準から広告取扱要項まで文書化されたものが理事会の承認を得ました。すでに申し込みをいただきましたが、まだスペースはあります。今後も申し込みをお待ちしております。

③エコプロダクツ2008への出展ができませんでした

主催者((社)産業環境管理協会、日本経済新聞)側との行き違いにより、エコプロダクツ2008への出展手続きが期日までにできないため、エコプロ不参加という事態になり、申し訳ありませんでした。

④普及広報部+有志でホームページの改善に鋭意取り組んでいます

長らくホームページ改善やメーリングリスト取り扱いについて、方向性が見出せぬまま日時を費やしておりましたが、2009年2月頃には、明確な方針を出す予定です。

(普及広報部 鈴木昭男)

組織部

5年半前、500名で出発した当ネットワークも2,000名を超す組織に発展してきました。関西ブロックでは、年明け早々京都に「地域交流会」を立ち上げることになっています。四国ではこれまでわずかな会員しかいませんでしたが、今や40名を越して「四国ブロック」結成を目指して動いています。

しかし、関東圏の地域ではここ数年動きが止まっています。原因はいくつかあると思いますが気持ちを一新して拡大へ立ち上がりようではありませんか。これが1つ。

2つ目は、「賛助会員」の拡大についてです。11月の理事会で賛助会員の拡大をめざし、各地域に最低3会員の拡大をお願いすることに決まりました。

PV-Netの趣旨に賛同する会社や団体などへ、地域や個人のつなが

りを生かして呼びかけてください。加入された会社などにはPV-Netのホームページ上で紹介するなどの特典があります。PV-Netにとっては年会費1口3万円の法人会員(1口1万円の個人会員も)をつくることで財政の支えになります。また3万円の内1万円は地域に還元します(初年度のみ)。静岡では早速設置業者に働きかけ2団体の会員拡大がありました。

「会員にはちょっと…」という方には「寄付」をお願いしましょう。

3つ目、各地域に「会費未納者対策」をお願いしてきました。これはなかなか骨の折れる作業ですが、各地域頑張っていたいただきありがとうございます。ぼつぼつ振り込みもあり成果は上がっていますが、これで終わったわけではなくこの取り組みは続きます。また退会希望者も出ていますが、「退会届」の提出と地域からの申請がなければ名簿からの抹消はしませんので、地域での一層の把握をお願いいたします。

4つ目です。12月23日「地域代表者会議」が開かれます。財政事情で遠方はインターネット会議となりますが、理事会と地域を結び情報共有、また地域間の活動交流を目的に開催が決まりました。

(組織部座長 田中東紀男)

PV-Green事業部

PV-Greenを活用した自治体との協働は本年度当初から愛知県、10月から東京都葛飾区と実施しています。両方とも計量法対応の活動が特色となり今後の他の自治体の取組みのひな型となる画期的なものです。9月22日部会を行い次のような確認をしました。

1) 部会のあり方と

コアメンバーの新設

PV-Greenはグリーン電力証書の事業であるため、事業としての日

常的な変化への対応と企画推進には集中と機動性が問われます。PV-Green事業部会メンバーは20名近くになり、ボランティアとしての限界もあり、コアメンバー(5名)を設置し対応していくことにしました。

2) 計量法問題への対応

適用の猶予措置について、署名・請願を含めてPV-Netが求めてきた要求を実現させることは困難な情勢と現実的な判断をしなければならぬとして、影響の出る会員の人数、時期を調査の上会員への通知を行います。設置推進のために認証済電力量計の調達、斡旋やリース会社との提携を模索することも話し合われました。

3) PV-Greenの参加、販売状況

委託販売についても確認をしました(P6参照)。

4) 価格の再検討

①大型PV(非個人)交付価格の新設(個人分付加価値主張、企業の電力購入見合等から非個人への交付価格は下げる方向を検討課題とする)②消費税の取扱いの統一し、③PV-Green基金への算入基準の確認をしました。

5) 東京都対応

特にグリーン電力証書を活用した国規模に匹敵する大型補助制度が来年度から東京都が実施することに合わせて、協議を働きかけることにしました。

6) 市民共有グリーン電力証書の普及

現状は個人住宅PVの証書化ではPV-Netが独占的ですが、広く普及させることが目的であるので、各地のNGOや団体とPV-Netの証書発行ノウハウを活用し協業することを考えることとしました。

7) その他

ホームページのリニューアルやグリーン基金の活用と取り決めについては、引き続き検討していくことになりました。

(PV-Green事業部 都筑 建)

☀️ ご寄付、どうもありがとうございました！

～ご寄付にご協力いただいた皆さん（敬称略・順不同）～
 栗原稔 横山英俊 本田信善 重宗利明 和気忠永 佐藤俊夫 味元佳恵 奥山道江 平岡俊夫 白井邦夫・貞枝 小川博之 吉永光伸 田仲偉和 匿名（3名）の方からご寄付をいただきました。活動へのご理解とご支援に厚く感謝申し上げます。

☀️ PV-Net活動を応援して下さる、賛助会員を募集しています！

太陽光発電所ネットワークでは、活動趣旨に賛同し、運営を支援して下さる団体・企業・個人の皆さんを募集しています。賛助会員名は、当団体のホームページ（以下PV-Net HP）、賛助会員一覧にも掲載されます。募集の詳細はPV-Net HPをご覧ください。もしくは事務局までお問い合わせ下さい。

	年会費（入会金※1）
企業	3万円/1口 1口～※2
個人	1万円/1口 1口～

※1：初年度は入会金のみで年会費は不要。
 ※2：年会費は1口以上でお申し込み下さい。

☀️ PV-Net HPバナー広告掲載企業・団体の募集をスタート！

PV-Netでは、普段から太陽光発電の普及に努めていますが、この度、太陽光発電に関する事業者の取り組み、製品PRなどの場としてPV-Net HPを活用し、バナー広告の掲載をスタートします。賛助会員の募集とあわせて、みなさんの知人・友人など多くの方々へ情報を提供しお誘い下さい。

<募集概要>

- 掲載位置：PV-Net HPのトップページ
 - 掲載期間：原則として1か月単位
 - 掲載料：3万円/1か月（前納）
- 申込に必要な資料や詳細についてはPV-Net事務局までお問い合わせ下さい。応募（随時）をお待ちしています！

☀️ MAKE the RULE（メイク・ザ・ルール）キャンペーンにご協力下さい

温室効果ガスを削減するための確実なルール（法律）作りを求めるMAKE the RULEキャンペーン（詳細は会報P.9参照）では、現在請願署名活動を行っています。全国的な盛り上がりをもって法制化を狙うには、ひとりひとりの声と行動が大きな力になります。みなさん、ぜひ請願署名にご協力下さい。

※同封の請願署名用紙をお使い下さい。

☀️ ボランティアを募集しています

事務局（東京・御茶ノ水）にて定期的（週1回程度）に入力・印刷などを行う事務作業、会報の発送やイベント出展ボランティア、在宅でのHP作成など、できる範囲でお手伝い下さる方を募集しています。ご興味・関心のある方は一度事務局までお気軽にご連絡下さい。時間、頻度、作業内容などご希望を伺い調整させていただきます。どうぞ、よろしくお願い致します。

ペンギンのはばたき

◆エコがブームになってすいぶんたちますが、CO2は相変わらず増え続け地球温暖化の影響は大きくなってきています。CO2を減らすための社会のルール（法律）、しくみを作るため、MAKE the RULEキャンペーンにご協力下さい。（し）
 ◆グリーン電力証書の売れ行きが伸びています。太陽光の証書価格は風力やバイオマス等に比べ高い

のでPV特有の価値を認めた優遇策がほしい。石油に頼らない未来へ混沌としながら世界は動きはじめさらに動かしていくためにMAKE the RULEへの協力もぜひ。（て）

◆ドイツに抜かれたから数を増やせただけではない。未来社会の要の太陽光発電の健全な普及が求められ、これまでの設置者の声が重要な役割を果たす時です。（都）

Editor's Notes



特定非営利活動法人
太陽光発電所ネットワーク（略称：PV-Net）
 〒113-0034 東京都文京区湯島1-9-10
 湯島ビル202号室

<交通のご案内>

- ① JR / 地下鉄御茶ノ水駅「聖橋口（秋葉原駅側）」より徒歩5分
 - ② 地下鉄新御茶ノ水駅「B1出口」より徒歩5分
- TEL 03-5805-3577
 FAX 03-5805-3588
 URL : www.greenenergy.jp
 E-mail : info@greenenergy.jp

(2008年6月)

- 1日 「はやま環境フェスタ」相談コーナー 出展（神奈川県地域交流会）
- ＜神奈川県アドバイザリー事業＞相談会開催
- 緊急集会「40万の太陽光発電所長の環境価値を守れ！6.1全国緊急集会in大阪」（関西地域交流会）
- 4日 東京地域世話人会
- 6日 山梨地域交流会世話人会
- 7日 エコライフフェア2008出展
<http://ecolife2008.com/index.html>
- 埼玉地域交流会世話人会
- エコライフフェア2008出展
- 8日 エコライフフェア2008出展
<http://ecolife2008.com/index.html>
- 12日 「カーボン・マイナス県民フォーラム」出展（埼玉地域交流会）
- 15日 新エネ・アドバイザリー事業説明・相談会開催
- 17日 地球イニシアティブフォーラムVol.1 国政公開討論会
- 19日 普及広報部会
- 23日 ソーラーマイレージクラブ事業キックオフ会議
- 26日 東京地域世話人会
- 28日 2008年度通常総会
- 29日 グリーン電力説明会 / 交流会in京都（関西地域交流会）
- 30日 新エネ・アドバイザリー事業説明・相談会（神奈川県地域交流会）
- グリーン・エネルギー・パートナーシップ設立総会（PV-Net展示あり）

(7月)

- 4日 【洞爺湖サミット第1回記念イベント】（大人向け）
 共催：ひむか・おひさま共和国
 PV-Net宮崎地域交流会、環境みやざき推進協議会
 埼玉地域交流会世話人会
- 7日 「エコウエーブSAITAMA2008」出展（埼玉地域交流会）
- 11日 加須市生涯学習セミナー講師（埼玉世話人会）
- 17日 普及広報部（RE2008準備打合せ）
- 19日 【洞爺湖サミット第2回記念イベント】（大人向け）
 共催：ひむか・おひさま共和国、
 PV-Net宮崎地域交流会、宮崎県環境情報センター
 「再生可能エネルギー世界フェア」開催
- 30日 第3回「新エネルギー世界展示会」に出展（8/1）
 「再生可能エネルギー世界フェア」開催

(8月)

- 1日 「再生可能エネルギー世界フェア」開催
 【洞爺湖サミット第3回記念イベント】（子ども向け）
 <お話し、ミニソーラーカー親子製作教室、
 知事公舎PV見学会>
 共催：ひむか・おひさま共和国、
 PV-Net宮崎地域交流会、環境みやざき推進協議会
- 2日 【洞爺湖サミット第4回記念イベント】
 <お話しとペットボトルのミニソーラーカー親子製作
 教室（小学生対象）>
 共催：ひむか・おひさま共和国、
 PV-Net宮崎地域交流会、環境みやざき推進協議会
 埼玉地域交流会世話人会
- 【洞爺湖サミット第4回記念イベント】
 <お話しとペットボトルのミニソーラーカー親子製作
 教室（小学生対象）>
 共催：ひむか・おひさま共和国、
 PV-Net宮崎地域交流会、環境みやざき推進協議会
- 6日 東京地域世話人会
- 16日 千葉地域世話人会

(9月)

- 2日 「マーチン教授講演会」ドイツの太陽光発電普及と
 エアランゲン市のマーチン教授の取組について
 PV-Net宮崎 / ひむか・おひさま共和国共催
- 3日 東京地域世話人会
- 6日 埼玉地域交流会世話人会
- 7日 エコメッセ2008inちば出展（千葉地域交流会）
- 21日 新エネ・アドバイザリー事業説明・相談会（神奈川県地域交流会）
- 28日 知って・さわって・遊んで体得
 おもしろ太陽光発電セミナー
 環境2008宇都宮?みんなで広げよう
 「もったいないの環」出展（栃木地域交流会）

(10月)

- 4日 知って・さわって・遊んで体得
 おもしろ太陽光発電ワークショップ
 埼玉地域交流会世話人会
- 5日 放送大学下馬祭 東京地域交流会協力出展
- 18日 「保土ヶ谷区民祭り」相談コーナー出展（神奈川県保土ヶ谷近隣グループ）
- あしががグリーンアップフェア2008
 省エネやゴミ減量について考えよう
 出展（栃木地域交流会）
- 「ストップ温暖化SAITAMAフェア」出展
 （埼玉地域交流会）
- 26日 せたがや環境行動DAY

(11月)

- 1日 ライフスタイルフォーラム2008
 （地球と共生するくらしかた）
 「地球環境イベント・アジェンダの日2008」出展
 埼玉地域交流会世話人会
- 2日 ライフスタイルフォーラム2008
 （地球と共生するくらしかた）
[http://www.lifestyle-forum.org/\[volunteer\]](http://www.lifestyle-forum.org/[volunteer])
- 15日 「地球環境イベント・アジェンダの日2008」出展
 川越さんばく / 環境展 出展（埼玉地域交流会）
- ボランティア・NPO見本市出展（佐賀地域交流会）
 主催：鳥栖市民活動センター
- 16日 川越さんばく / 環境展 出展（埼玉地域交流会）
- 30日 「さいたまエコフェスティバル2008」出展
 （埼玉地域交流会）